



基礎研究医養成プログラム セミナーのご報告

NIH、米国の研究事情について

大阪大学理学研究科で PhD を取得後、博士研究員として米国・ピッツバーグ大学医学部に留学。その後 NIH のガン研究所 (NCI) でコラーゲン遺伝子の進化、発現調節機構の研究に携わる。1983 年に NIH の歯科顎顔面研究所 (NIDCR) に移り、基底膜成分や軟骨マトリックスの構造、機能解明、遺伝子疾患の原因遺伝子の同定や、歯、毛など外胚葉器官形成と疾患の研究に従事している。

▼Guest Speaker

山田 吉彦 先生 NIDCR Chief, Molecular Biology Section

RESEARCH SEMINAR 01
2013.5.13



解剖学者のライフワーク

～多細胞動物における原尿産生装置の進化～

2001 年順天堂大学医学部を卒業後、ただちに解剖学講座助手として勤務。現在まで一貫して、腎糸球体構成細胞の形態学的研究に従事してきた。2011 年 9 月から本年 2 月まで米オクラホマ大学ヘルスサイエンスセンターにて小型魚類を用いた糸球体研究にも従事。ライフワーク的な研究として、多細胞動物における原尿産生装置の進化過程の解明に取り組んでおり、この成果により日本解剖学会奨励賞、日本比較生理生化学会吉田奨励賞（内定）を授与されている。

▼Guest Speaker

市村 浩一郎 先生 順天堂大学 解剖学・生体構造科学講座 准教授

RESEARCH SEMINAR 02
2013.6.17



アメリカでの臨床と研究生活の体験から

1999 年東京大学医学部を卒業し 2 年間の麻酔科研修医の後、米国で外科インターン、麻酔科レジデントと 5 年間の臨床研修に従事。2005 年からはボストン小児病院の麻酔科フェロー兼リサーチフェロー、2007 年から日本で麻酔科医として病院勤務する傍ら東京大学で研究を行った。2009 年に再渡米し、現在ボストン小児病院で心臓麻酔部門スタッフとして臨床に従事する傍ら、ハーバード大学で麻酔薬の免疫系に及ぼす影響について研究を行っている。

▼Guest Speaker

結城 公一 先生 米国ハーバード大学 医学部 Assistant Professor

RESEARCH SEMINAR 03
2013.7.8



基礎研究医養成のための順天堂型教育改革

平成 24 年度 文部科学省事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」に採択されました。（39 大学申請、10 大学選定）

- ・この事業は、医学部及び医学系大学院において、魅力ある基礎研究医養成プログラムを構築する優れた取組みを支援するものです。
- ・これまでの研究医養成枠、基礎医学研究者養成奨学金貸与等の取り組みに加え、医学部・大学院をシームレスにつなぐ特別コースを実施します。

基礎研究医養成プログラム専用スペース



本郷キャンパス
センチュリータワー南
7 階 S703

最新情報は
こちらから

<http://www.juntendo.ac.jp/kenkyui>

お問合せは
こちらから

e-mail : kenkyui@juntendo.ac.jp

RESEARCH SEMINAR 01

2013年

5/13
(月)米国 NIH の山田吉彦 先生による
セミナーを開催しました

米国 NIH 歯科頭蓋顔面研究所 (NIDCR) より山田吉彦先生をお招きして、基礎研究医養成プログラム第1回セミナー「NIH・米国の研究事情について」を開催しました。ランチョンセミナーの形式で、本郷キャンパス専用スペースに M2-M6 生 20 名が集まり、またさくらキャンパスでは TV 会議システムを利用して M1 生 11 名が聴講しました。NIH (米国国立衛生研究所) のご紹介と、米国特に NIH における若手研究者支援制度についてご講演いただき、学生からの質問に答えいただきました。海外研修や留学を考えている学生にとって、様々な受け入れ制度が用意されていることは今後の励みになりました。



RESEARCH SEMINAR 02

2013年

6/17
(月)解剖学・生体構造科学講座の市村 准教授
によるセミナーを開催しました

解剖学・生体構造科学講座の市村浩一郎先生による基礎研究医養成プログラム第2回ランチョンセミナー「解剖学者のライフワーク～多細胞動物における原尿産生装置の進化～」を開催しました。M2-M6 生 18 名とさくらキャンパスの M1 生 12 名が参加し、約 20 分のお話の後、市村先生には学生からの質問に答えいただきました。子供の頃から動植物の構造に興味があり、学生時代から解剖に明け暮れていたとおっしゃる先生にとって、解剖学はまさにライフワークで、解剖が好きで楽しいということが先生の研究の原動力になっている、ということでした。基礎医学研究を志す学生に対しては①普段の学業は大事②学生時代から基礎講座に出入りする③論文発表を目指す、というアドバイスをいただきました。市村先生の解剖学に対する深い愛が感じられる楽しいセミナーでした。



RESEARCH SEMINAR 03

2013年

7/8
(月)ハーバード大学の結城公一 先生による
セミナーを開催しました

「アメリカでの臨床と研究生活の体験から」と題し、米国ハーバード大学医学部 Assistant Professor 結城公一先生を講師にお招きして、第3回基礎研究医養成プログラムランチョンセミナーを開催しました。約 20 分のお話の後、参加した M2-M6 生 29 名、さくらキャンパス M1 生 7 名からの質問に答えいただきました。結城先生は、これまでアメリカと日本をまたにかけて臨床および研究の研鑽・指導を積んで来られ、現在は臨床 (先天性心疾患の麻酔科医) と研究 (麻酔薬と炎症・免疫反応) の両方でご活躍中です。日本とアメリカの臨床研修の違いや長所・短所を分かりやすく説明していただきました。また、本セミナー参加者の約 1/3 が海外で学びたいという希望を持っており、アメリカで臨床研修を行うための具体的な準備や方法について、たくさんの質問の1つ1つに丁寧に答えいただきました。しっかりとした目的をもって留学に臨むこと、そしてその経験をどう生かすかが大切だと教えていただきました。



本プログラムに興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

さくらキャンパス

○相談窓口

事務部 教務課 (0476-98-1001、内線 215)

本郷キャンパス

○内容について

○具体的な相談について

○手続き・その他について

基礎研究医養成プログラム室

キャリア支援相談室

医学部事務室 (03-3813-3111、内線 3221)